



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

UAE : 北部首長国経済事情 (ラアス・アル＝ハイマ首長国の好調な経済)
(7月16日付ガルフ・ニュース紙)

1. ラアス・アル＝ハイマ首長国のシェイク・サ우드・アル・カーシミイ皇太子兼副首長は、同首長国は現在大型開発を進めており、2008年の経済成長率は前年比15～18%増となる見込みであると述べた。
2. 同首長国政府は、同首長国内の全ての土地の都市開発化に向けた、包括的な開発計画の青写真を作成中であり、経済の多角化を勧める一方で、従来の観光、工業、サービスといったそれぞれの産業が中心を担う設計を行っている。5年後には、独自のアイデンティティと文化を有し、外国からの人々が共に働き暮らす、近代的かつ輝けるアラブ社会の大都市に成長することを目指している。
3. 2003年にシェイク・サ우드が皇太子兼副首長に即位後、政府系企業やラアス・アル＝ハイマ投資庁等を設立する等、同首長国内の経済開発計画を推進してきた。特に不動産に関して開発に力を入れている (Al Hamra Village、Mina Al Arab、Al Marjan Islands、the Cove、La Hoya Bay の建設等)。現在までに産業分野への投資額は91億ディルハムであり、一方350億ディルハム以上が不動産に投じられている。
4. 同皇太子によれば、ラアス・アル＝ハイマ首長国は先月よりオンラインで政府サービスを促進させる e-government portal を発足させ、今後、国民・居住者にオンラインで更なるサービスを提供していく方針である。